

# 生理学研究所点検連携資料室について

村上 政隆（生理学研究所）

---

生理研の村上政隆です。

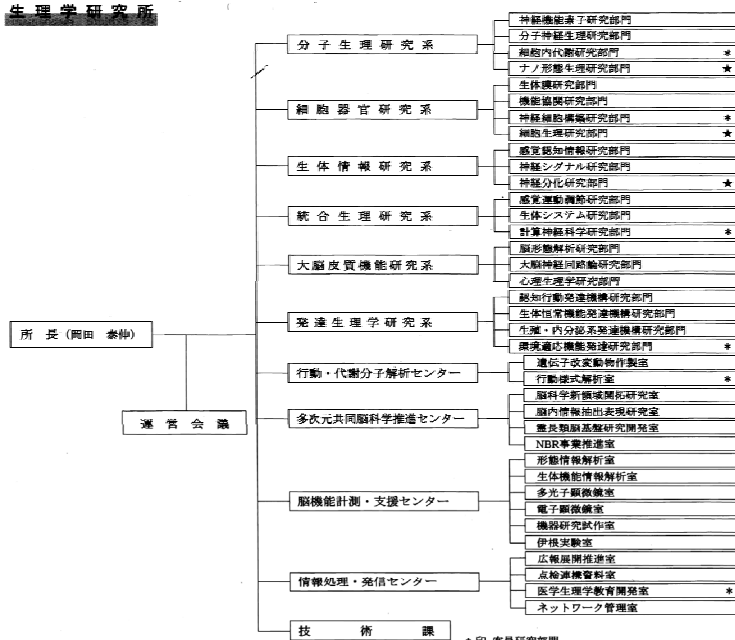
生理研のアーカイブズは昨年から資料をひとつの部屋に入れ、やっとスタートするに至りました。それまで所内にてどのようなかたちで部屋を位置付けるかといったことは全く決まっておりましたので、それをスタート時点で決めることはとても大変なことでした。そのあたりからのお話をさせていただきます。

生理学研究所で1月8日に集まりを持ち、現状報告をさせていただきました。その後、やっと研究所成立前後の資料の箱を空け、この整理をし始めています。

私どもの部屋は、研究所の11の研究系の中の、組織図のいちばん下にある情報処理発信センターの中に位置づけられています。これはいわゆる広報の役割と所内／所外の研究成果がうまく連携研究として成立しているかどうかといった業績資料の集積／評価資料作成、という2つの大きな柱を持っております。それ以外に所内全体のネットワークの維持を行うネットワーク管理室が3番目の柱となっています。さらに最近研究室ができてから社会一般に対して教育活動も展開していこうという目的で教育開発室も含んでおります。すなわち、情報公開推進室と広報展開連携資料室と医学生理学教育開発室、それに実際のネットワークを扱う部門というかたちですすめております。

## 第I部 本研究課題の成果報告

### 生理学研究所



自然科学研究機構 生理学研究所 組織図

## 情報処理・発信センター

### 概要

人体の機能とその仕組みを解明する学問としての生理学を研究する生理学研究所から、社会へ向けた適切な情報を発信する。そのために必要なネットワーク維持管理も行う。

生理学研究・教育情報の発信を、WEB・出版物・シンポジウムを通して企画遂行する【広報展開推進室】とともに、研究所の各種評価作業ならびに資料展示室の整備を行う【点検評価連携室】。人体生理学についての教育・啓蒙を進め【医学生理学教育開発室】、コンピュータ資源に加え、メール、WEBなど情報ネットワークの各種サービスを管理・維持する【ネットワーク管理室】。

実際のところ情報処理・発信センターのスタッフは、広報展開推進室のひとりだけが専任、あとはみな併任です。教育スタッフは客員部門となっております。私のエフォートは5%から10%のレベルでこの資料室を運営しているところです。現在本資料室では、私と名誉教授・山岸先生がふたりで毎週1時間くらい集まり、資料を整理し記録している状態にあります。

#### 情報処理・発信センター

定藤 規弘                      センター長（併）

#### 広報展開推進室

定藤 規弘                      教 授（併）

小泉 周                        准教授

#### 点検連携資料室

井本 敬二                      教 授（併）

村上 政隆                      准教授（併）

#### 医学生理学教育開発室（客員研究部門）

渋谷まさと                      教 授（女子栄養大学）

## 広報展開推進室

### 業務内容

---

人体の機能とその仕組みを解明する学問としての生理学を研究する生理学研究所から、社会へ向けた適切な生理学研究・教育情報の発信を企画・遂行することを主たる業務とする。人体生理学についての教育・啓蒙活動、WEB・出版物・シンポジウムなどを行う。一般広報誌「せいりけんニュース」を発行している（隔月）。また、岡崎げんき館で市民講座を定期的に開催している。

## 第 I 部 本研究課題の成果報告

広報室はみなさまの研究機関と同じように社会に向けたニュース・情報を流すということで、あらゆる新聞報道、岡崎市が主催するげんき館にて市民講座を開催したり、一般公開の時に多数の市民に来ていただいて研究所を理解してもらうといった活動を続けております。

### 点検連携資料室

#### 業務内容

---

生理学研究所では、1993年度より毎年点検評価を行ってきた。また2004年の法人化後は、それに加えて年度計画の作成・業務実績報告書の作成などの評価作業を行ってきた。これらの作業は研究所の運営にとって必須の作業であるが、労力を要する作業である。これまでの経験から、基礎的なデータの集積が、作業自体およびその効率化に不可欠であることが明らかになってきたため、2007年4月に点検評価資料室を設置した。また当室では、研究所の活動を示す資料室の整備を行う予定である。

評価に関する主な業務は、(1)年度計画の作成、年度業務実績報告書の作成、中期計画期間の実績報告書の作成などの中期計画にかかわる評価、(2)研究所の点検評価作業、(3)これらに関するデータの整理・集積、である。

一方、1993年ごろから研究所として毎年自己点検評価を行ってまいりましたが、点検連携資料室はそのための資料を集積してリンクさせるということを一番基本的な役割として発足しました。それにプラスして過去の歴史を史料として蓄積していこうというかたちでスタートいたしました。実際には2007年に制度ができたのですがけれども、実際の部屋が決まらずにおり、昨年度のはじめに地下に2部屋空きましたので、2008年より所内にちらばっていた資料をそこに集結させ始めました。



資料室 A（生理研資（史）料）

生理研の資料室は資料・マテリアルの‘資’か、それとも歴史の‘史’か、まだ決められてはいないのですけれども、その資料を1年かけて書架に並べてきました。ひとつの部屋には資料を整理の項目順に時代順に並べ、ぱっと見て何が欠けているのかどうかわかる

かたちになりました。もう一つの部屋はまず個人の資料を集結させ、それを整理していく方針ですすめております。

資料の塊の分類は山岸名誉教授がこれまで進めていた分類に従い、大きく分けると生理研が出した出版物、それから職員・研究員・大学院の記録、委員会の残した記録、シンポジウム・研究会・セミナーの記録などの印刷物を並べるという

## 山岸分類

1. 生理学研究所出版物  
A. 年報、B. 生理研史、C. 自己点検評価報告、D. collected papers、E. シンポジウム出版物、F. トレーニングコース出版物、G. 要覧、H. 技術課出版物、I. 生理研ニュース、J. 施設利用の手引き、K. 生理研サーキュラー、L. 新プロ創成的基礎研究、M. 出版物年毎全ファイル
2. 職員・研究員・大学院生等記録
3. 委員会記録
4. シンポジウム・研究会・セミナー
5. 保存資料  
A. 概算要求記録、B. 設立準備記録、C. 総研大生理学専攻設立記録、D. 生理研建物建築記録、E. 写真・アルバム
6. 個人論文・著作ファイル
7. 生理研関連出版物
8. 生理研紹介出版物・記事
9. 寄贈図書・寄贈品

こと、それから印刷物ではありますが、概算要求記録など1点ものの記録などもありますので、それらをできる限り収集する。論文・著作ファイル、その他研究所に関連した外部からの出版物を集める、生理研紹介出版物などもございます。さきほどお話しいただいた梅棹先生の出版物には到底及ばないのですけれども、研究所全体のレベルで行うとなるとかなり公的な部分を明らかにしていかなければならないため、現在ではこの方法で並べております。

## 第 I 部 本研究課題の成果報告

右の写真の棚の左上には毎年集めたセレクトドペーパー、左下2段目にあるのは研究所の年報です。設立当時から200、300ページのものを出しており、それをずっと保管しております。黄色・コバルトのツートンカバーのものが点検評価のレポート、10年ごとの記念誌などもあります。右上



Selected papers、年報、点検評価、  
10年毎の記念誌、シンポジウム要旨集、  
要覧、トレーニングコーステキスト、  
学位審査要旨集、技術課報告集など

で雑然と並んでいるのがシンポジウム要旨集と要覧です。毎年行っておりますトレーニングコーステキスト、総研大にもすべて揃っているのですが必要はないと思いますが学位審査要旨集などを集めております。



せいりけんニュース、切り抜き、教授会  
記録、評議員会・運営協議会記録

こちらの方は生理研の職員に対して紙刷りで配布していたせいりけんニュース、右上のファイルの中には新聞記事の切り抜きなどが入っております。それから教授会記録、評議員会・運営協議会の記録も収集・保管しております。



2009年1月8日の時点では、こういったかたちでありました設立準備資料などは現在机の上に展開されて、今、整備されるのを待っている状態です。

生理学研究所設立準備資料、建物・設備資料など

生理学研究所の所長でありました江橋先生の資料は、先生のご自宅から生理研の方へ移管され、右の写真の左側に映っているように、テーブルの上下に並んでいる状態です。これらの資料の整理をしていかなくてはならない状態です。



資料室 B（個人資料：江橋資料など）

現在、公刊物の大まかな資料分類と整理が終わりましたので、それを File Maker Pro（ファイルメーカープロ）によって随時入力を開始しております。

核融合研で開発された File Maker Pro のフォームを使用し、生理研なりに必要な項目を足したり引いたりして分類をした同時期にデータベースの作成を始めました。こういったことを1年間行いまして、現在大体150件ほど入力が完了いたしました。次ページのものが現在使用しておりますデータフォームです。

*NIPS Archives Database (2008-)*

入力年月日	
照合年月日	
整理年月日	
ID Number	
資料提供者	
文書・資料名	
副題	
時期	
資料内容	
資料作成者・機関	
発行・作成年月日	
機関情報	
資料の形態	
性格情報	
会議名情報	
分野・目的情報	
研究分野情報	
所在情報	
予備数	
参照記号番号	
修復記録	
備考	
pdf file	
写真資料	

version 1.0.0 by mm based on NIPS Archives

File Maker Pro データフォーム



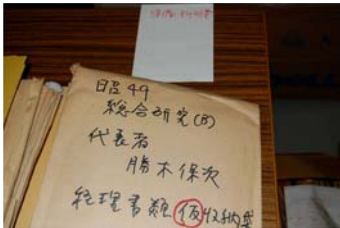
## 生理学研究所点検連携資料室について（村上）



生理学研究所設立準備期の  
資料整理（2-3月予定）

左の写真は1月8日以降にスタートした、段ボールから出して並べた資料です。こちらはテーブル一杯に広げてあり、かなりの部数があると思われます。中には廃棄すべきものもまだ含まれております。ですから、3部ずつは残して他は廃棄し、可能な限り嵩を減らし、整理しやすくしていこうと考えております。

右上に映っているものは設立当時の科研費の調書や会計の資料、設立委員会発足時、委員何人かがメモ付きの議事録などを保管したものが別々にあり、いろいろなまとめ方があるものだと感じいたしました。とにかく、公刊物として出されたものは直に並べ、それ以外のもの、各委員がそれぞれ保管されたものなどは委員個人のまとめ方を尊重し整理する予定です。



準備開始資料：  
1974 総合研究（B）



準備会議資料  
（準備委員会、実行委員会）

左上の写真は総合研究Bで勝木先生がスタートしました設立準備の資料です。経理の書類なども含まれております。

準備会議の議事録や周知関連の書類などもバラバラ出てきますので、それを整理しております。

## 第 I 部 本研究課題の成果報告

右の写真は各設立準備委員会の委員個人がそれぞれまとめた資料です。

2 つ目の写真は昭和 53 年 ( 1978 年 ) に文部省の方へ提出された、岡崎研究機構がまとめてくださった『分子科学研究所・基礎生物学研究所・生理学研究所創設の経緯等に関する資料』という資料です。ちょうど研究所がスタートして 1 年経ったぐらいに発行されました。この印刷物には会議等の資料などすべてが盛り込まれております。実はこれ 1 冊だけ保管しておけばよいのではないかといった意見もあるのですけれども、すべて保管しておこうといったスタンスですすめております。今現在、こちらは 1 部しか見つからず、上の方へ ' 取扱注意 ' と書いてあるように、取り扱いには注意をしようと思っております。

その他、実行委員、最初はどのような経緯にわかれて出てきたのかといった案として成立したもの、それから印刷物になったもの、それぞれ出てきております。

研究所を創るための基礎資料や参考資料として外国から集めた資料、たとえば Max-Planck Institute や NIH ( National Institute of Health ) のものなどがございますが、1970 年代の外国の研究所紹介の資料はかなり面白いのではないかと思います。



準備 / 実行委員会委員の  
個別資料



研究所計画 (出版資料)



生理学研究所 設立実行案 文書



参考資料  
( 海外研究機関の概要等 )

その当時、日本国内で出された資料も出てきております。これらのものを年代順に並べ、インプットしやすく整理していこうと考えております。

今後は右図のように段ボール箱に入っている未整理の資料がまだたまっておりますので、その整理をすすめていくことも考えております。

ところが、現在困っていることがあります。コピー機がなかった1960年代の青刷りの資料が出てきたのですが、それらは今見えているうちにコピーをとっておかないといけません。これは青刷りの資料らしい、と真白な資料が出てきたこともあり、しまったと思わされております。

今後これら資料の整理を続け、紙資料をPDF化することを考えております。何部も部数があり、かつPDF化されていないものは、背表紙をはずして自動的にPDF化してくれるコピー機にかけ、サーバーに送り、可能な限り人手がかからないようにできる方法はないかと考えております。そうできるものはよいのですが、できない大きな資料などはA3版のスキナーで取り込む予定です。とにかくこの部屋には予算がないといいますが、どこからか探してきてものを調達しなくてはならないという理由から、松岡先生のオファーにより、いろいろなものを購入していただき、大変助かっております。それ以外に研究所の中でも使う予定のないG3 マッキントッシュやA3のスキナーなどをかき集めて整理をすすめていこうと考えております。

以上で生理研の報告を終わります。



参考資料  
（国内研究所、  
学会会議動向など）



未整理資料：8分類し  
時系列で配列後、  
データとして  
ファイルメーカーに登録

## 第 I 部 本研究課題の成果報告

### 【質疑応答】

関本： どうもありがとうございました。G3 マックなど、それそのものがアーカイブズになりそうなお話をありがとうございました（笑）

小沼： 電子媒体のものを紙に変えていく計画があるというお話がありました。一般的に紙より電子媒体の方がたくさん情報が入るため、紙におききれない情報が電子になると私は思っているのですが、その計画はどのようなお考えから来ているのでしょうか？

村上： さきほど写真でお見せいたしましたが、書架に並べて、抜き出して、見たいといった要求もおそらくあるであろうということで、その場合は紙媒体にして保存しておくのが一番手っ取り早い。どんどん電子化されているように、せいりけんニュースなどもそうですが所内でサーキュレートされていた資料などは全てネットからおとす方式になっております。そういたしますと紙媒体ではなくなっている部分が出てきており、それを紙におとしてバインドしていくことも必要なのではないかと考えております。それは使う方の使い勝手という点を考慮したということが一番大きい要因であると思います。

小沼： 私は電子媒体も紙も使っています。これからも紙のほうが適切な場合があると思うのですが、なかなかそちらの方向へいかない時代になってきたので困っております。

平田： いろいろな方が残された資料が重複する場合、それらを廃棄せざるを得ない状況であることは理解できるのですが、資料としては誰が集めた資料であるかといった情報は後に重要なインフォメーションになると思うので、今後、箱から出てきたすべてのものについて情報元がきちんと残るように整理を行っていただきたい。